

第16回 狭山市民芸術祭 開催さる

2月23日(火)から28日(日)にかけて、高麗郡建郡1300年記念 第16回狭山市民芸術祭が「時の流れにのせて」を全体テーマとして開催されました。6日間で延べ4300人の来場者があり、大作・力作が並んだ加盟団体による展示や、茶席、舞台発表「世代を超えて」の他、昨年からはまった模擬店、観客参加型オブジェも大好評でした。

最終日の28日には、企画公演として、合唱と合奏によるコンサート「音楽へのいざない」が大ホールで開催されました。市内の合唱団体、珍しいフルートアンサンブルとオカリーナ合奏団、そして秋草学園高等学校の吹奏楽部の出演で、800人の観客を魅了しました。また、特別演目として、高句麗古墳や高松塚古墳の壁画から再現した古代装束ショーも行われ、1300年前の時代を再現したそのきらびやかな衣装に、観客の眼も釘付けでした。フィナーレには、ふるさと狭山を讃えたオリジナル曲「春の神話」吹奏楽版が、合計170名を超える合唱団と吹奏楽部によって初演され、全員感動の下に終演となりました。



古代装束ファッションショーと高麗美舞体操の実演



フィナーレ「春の神話」の合同演奏者

第16回 狭山市民芸術祭を終えて

初めに、このたびの芸術祭では、大ホール公演の入場時に混乱が生じてしまい、早くからお並びいただいたご来場者にご迷惑をお掛けしました事を、心よりお詫び申し上げます。

しかしながらお陰様で、総体的には大成功と言える結果となりました。内・外の参加者、それを支えるスタッフの各部門担当者それぞれが、「より良く」との思いで自ら工夫し、実践し、協力をしながら、その時の出来る限りの力で取り組むという姿勢自身が、優れた事業の展開となり、ご来場者に喜んで頂ける結果につながりました。

これはひとえに、高麗神社・高麗1300事務局・企画公演にご出演頂いた各団体・気仙沼と共に歩む会さやま・模擬店出店者などの、外部団体各位から多大なご協力を頂いた事、そして、全関係会員の力があつたればこそと、皆さまに心より感謝申し上げます。

更に有り難いのが、例年楽しみにしてご来場下さる観客の皆様。どんなに頑張っても、ご来場者が居ない事には成り立ちません。

以下に、おおよその数字でご報告申し上げます。

- ご来場者：4,300名(6日間延べ人数) ●企画公演：770名(チケット販売数) ●小ホール公演：530名 ●展示：3,000名
- 茶席参加者：290名 ●高句麗古代装束試着者：80名 ●模擬店販売金額：62万円(7店舗合計) ●「私の心に残る曲」応募総数：236曲

これからも皆様に喜んで頂ける芸術祭、意義ある芸術祭を提供してゆけるよう頑張ってお参りますので、今後是非足をお運び下さいます様、お願い申し上げます。

第16回狭山市民芸術祭実行委員長 横山美衣